

春風が運ぶ 雅び



いながわ 特派員報告



久保田 由美



中橋 弥里

陽の光に感じる春の訪れ。3月3日は、桃の節句「ひな祭り」です。雛人形や桃の花を飾って、女の子の幸福と健康やかな成長を願うひな祭りは、いくつになっても心が弾む嬉しい日。

今回は、華やかな伝統行事ひな祭りについて、いわれや歴史を調べてみました。また、三世代のお雛様を飾られているお宅や、年代物のお雛様があるお宅にうかがいました。

ひな祭りの歴史

ひな祭りは、季節の節目の習わしとして江戸時代に制定された「五節句（七草・桃・端午・七夕・菊の節句）」のひ



▲左から平成・昭和40年代・昭和初期のお雛様があでやかに並ぶ

3世代のお雛様

昭和初期・昭和40年代・平成と3世代のお雛様が並ぶのは差組地区の高岡登・知恵子さん宅。豪華な御殿付きの御殿雛から立派な道具の揃った7段飾りまで、赤い毛氈（もうせん）が目鮮やかで、圧倒されそうなほど壮観です。

「姉・娘・孫のお雛様です。古いものまで飾る家は少ないので、見学に来た小学生達も驚いています」と高岡さんは笑顔で話されました。

それぞれの時代で女の子の成長を見守ってきたお雛様達。部屋を華やかに明るく彩り、見る人の気持ちまで明るくしてくれるようです。

とつで、「上巳（じょうし）の節句」ともいいます。上巳とは、旧暦の3月上旬の巳の日をさし、古来中国ではこの日に川で身を洗い清めて不浄をはらうという風習がありました。それが平安時代に日本に伝わり、紙やワラで作った人形（ひとかた）に自分の災厄を託して川や海に流す「流し雛」が行われるようになりまし

す。「流し雛」が行われるようになりまし。また、この頃、貴族の女の子の間で人形遊びの「雛（ひいな）遊び」が盛んに行われていました。雛には、小さくてかわいらしいという意味があります。

ひな祭りの起源は、このように流し雛と雛遊びが長い年月の間に結びついたものとい

春色のカラフルな膳

祝いのごちそうは、祭りの楽しみのひとつ。献立はそれぞれいわれがある縁起物で、お雛様にも供えます。ひし餅の緑・白・桃色の3色は、白い雪が溶けて大地が緑になり桃の花が咲くという春の訪れを表しています。白酒は体を清め、はまぐりは二枚の貝殻がびたりと合うことから将来良い伴侶に恵まれるという意味があります。また、祝いの席に飾る桃の花は、魔除けの力があるとされています。

季節感いっぱいの節句料理で、自然のエネルギーを取り込めば、災いや病魔を払うパワーを得られそうです。

受け継がれるお雛様

島在住の西山吉夫・佐枝子さんのお宅には、明治の終わり頃のものとなる掛け軸のお雛様をはじめ、優雅な御殿雛、戦前の市松人形など年代物の人形や道具が飾られています。旅先で求められたものや手作りのかわいいお雛様もセンスよく並べられ、とてもにぎやかです。

押し絵の珍しいお雛様（写真左）は、軸が古くなって痛んでいたものを、佐枝子さんが着物の帯を使って修復されたそうです。人形を保管する際には、柔らかい紙で顔を覆って箱に入れ、少しでも湿気の少ない蔵の2階に納めるなど大切に扱い、慈しんでおられます。

「子ども達が幼い頃、人形を手を持ちたり、長持ちにリカちゃん人形のドレスを入れたりして遊んでいたの、壊れたり持ち道具がなくなってしまうものもあり

タペストリー風の歴史あるお雛様



あります。触らせずにそっと飾っておけば美しく保てたかもしれませんが、子ども達がひな祭りを楽しみ、人形も子ども達にかわいがられたので幸せかもしれません」と語られる西山さん。

素材も大きさもお顔もさまざまなお雛様達ですが、美しくしつらえられたお座敷に年に一度勢ぞろいし、末永い家族の幸せを願っているように見えました。



▲代々伝わるお雛様を大切にされています

お雛様にまつわる話 あれこれ

Q1 お雛様を早く片付けないとお嫁にいけないの？

これは迷信ですが、お雛様をいつまでも飾って置くのは、だらしがないという戒め。

Q2 お内裏様とお雛様の座る位置はどっち？

古くは、向かって右に男雛、左に女雛を飾りましたが、現在では、西洋式のその逆の並べ方が一般的。しかし、関西では今でも古式に飾ることが多い。

Q3 姉妹でひとつのお雛様を共有してもいい？

お雛様は、その子どもの身代わりとなって厄を受けるため、基本的には1人1飾りです。



静思館おひなまつりに行きますか！

明治時代から平成までのさまざまな年代の雛人形や、手作り雛飾りなど豪華絢爛に多数展示されます。琴の演奏やコーラスも催され、いにしへの雅の世界が堪能できます。また、お茶席や喫茶など（有料）も用意されます。

とき 3月2日（金）
～同4日（日）いずれも午前10時～午後4時
ところ 静思館
入場料 無料
問合せ 文化協会事務局（766-0013）



▲心なごむ手作り雛

後編集



町内では4月3日に旧暦のお祝いをする家も多い中、取材のために一足早くお雛様を飾っていただきました。桃の花が見ごろを迎える4月3日ならば、まさに桃の節句と言ふのがぴったりですね。子ども達の頃、ひな祭りがとても楽しく、心踊る日だったことを思い出しました。手間を惜しまず、節句など四季折々の行事を大切に、心豊かな日本の伝統を引き継いでいきたいと思いました。

【いながわ特派員】